

# 再建 生徒寮お披露目

被災した場所で新たに完成した鵜川高  
野球部の生徒寮



胆振東部地震で被災し、むかわ町が整備を進めていた鵜川高校野球部の生徒寮「三気塾」(むかわ町文京)の完成お披露目会が17日に開かれた。来賓や関係者らが施設の再建を祝い、部員たちが思いを新たにしていた。

## 復興のシンボルに

野球部の旧生徒寮は、2018年9月に発生した地震で基礎部分が損壊するなどして「半壊」の判定を受けた。部員は避難所生活を経て約2年間、移動可能なモバイルハウスを連結させた仮設寮で過ごしてきた。

新たに建てられた生徒寮は、鉄骨造り2階建てで延べ床面積約991平方メートル。2人部屋の居室27室と倉庫2部屋のほか、食堂・厨房(ちゅうぼう)、マネジャー室、各階に洗濯・乾燥室などを備える。地域住民との交流やスポーツ合宿などでも利用

## 鵜川高野球部「三気塾」

## 練習打ち込める環境に感謝

できる多目的・研修室と、屋外には多目的広場も用意している。建物取得費は約3億600万円。

お披露目会のセレモニーで竹中喜之町長があいさつし、「この寮を復興のシンボルとして、これまで培ってきた三気野球(元気、本気、一気)の魂を吹き込み、皆さんの目指している目標達成、感謝のしるべとして活用して」と期待を寄せた。

新しい寮は昨年12月末に完成。1、2年生は今年10月に引っ越しを済ませて新しい寮で生活をスタートさせ、3年生は16日に入寮した。前主将の阿部終希さん(17)は「3年間は『今までも避難所や仮設寮で何と自由な生活をさせてもらった中で、新しい寮も建てていただいて、町の方々に感謝したいです』と喜びを語る。

山崎航生主将(16)は「2年間は『練習場にも近く、寮も大き

来賓、関係者に施設内を案内する山崎主将(中央)



く新しくなって、野球にすぐ打ち込める環境をつくっていただいた」と感謝。仮設寮の1人部屋から2人部屋になることに触れ、「助け合うことが多くなる。これを機にチームプレーを深め、野球にも生かしていきたい。この寮生活を大切にしたい」と気持ちを新たにしていた。